

鳥類

1. 調査方法

(1) 調査地点

森ヶ崎の鼻・12号地貯木場・葛西沖人工渚・お台場周辺（お台場海浜公園及び第六台場）の4地点。

(図1 - - 1参照)

(2) 調査方法

環境監視船上から双眼鏡又は望遠鏡を使用して、以下の調査を月1回の頻度で行った。葛西沖人工渚のみ上陸して陸上より調査を行った。

鳥類の同定及び個体数の計測（干潟、海上等にいる鳥を対象とし、上空を通過する鳥は含まない）
採餌行動等の観察

天候、気温、風向・風速の記録

平成7年度より干潟の干出面積が大きくなるように、原則として大潮の干潮時に調査を行っている。ただし、時期により干潟の干出面積は異なる。（傾向として秋から冬にかけて干出面積は減少する）

注）鳥類調査は年度により調査回数・頻度が異なっている。平成10年度までは、お台場海浜公園を除く現在の3地点を含む計8地点で月1回の調査を行っている。また、平成11年度から平成13年度までは現在の4地点で月2回の調査を行っている。

(3) 対象鳥類

以下の鳥類に限定して調査した。

アビ目、カイツブリ目、ミズナギドリ目、ペリカン目、コウノトリ目、カモ目、タカ目（魚食性のものに限る）、ツル目、チドリ目、ブッポウソウ目カワセミ科、スズメ目セキレイ科（「日本鳥類目録 改訂第6版」（日本鳥学会、2000）より）

なお本報告書では、平成13年度以前の報告書におけるガンカモ科はカモ科に、ワシタカ科はタカ科になっている。

2. 調査結果

(1) 調査概況

平成15年度調査で観察された鳥類の出現種のリストを表1 - - 1に、鳥類出現種類数の経年変化を図1 - - 2に示す。また、月別、地点別出現状況を資料編の表? - ?に示す。

平成15年度の総出現種類数は57種であり、平成14年度と同数であった。これまでは、平成12年度の67種が最高であるが、この年度は月2回

調査を行っており、現在より調査頻度が高い。一方、月1回8地点で調査を行っていた平成10年度までは40~50種であったことから、当時と比較すると種類数は多いと考えられる。なお、今年度調査で初めて確認された種はオオメダイチドリ（チドリ科）とキセキレイ（セキレイ科）の2種であった。

地点別の出現状況を表1 - - 2に示す。出現種類数が最も多かった地点は森ヶ崎の鼻で42種、最も少なかった地点はお台場海浜公園の22種であり、平成14年度と異なり、葛西沖人工渚より森ヶ崎の

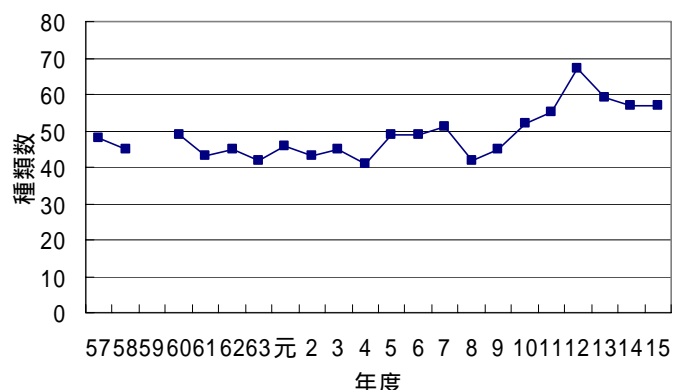


図1 - - 2 鳥類出現種類数の経年変化

鼻の方が種類数は多かった。葛西沖人工渚と森ヶ崎の鼻は干潟が広がる地点であり、その干潟の有無により種類数に差が出るものといえる。なお、4地点全てで観察された種は、カンムリカイツブリ・カワウ・アオサギ・カルガモ・スズガモ・キョウジョシギ・キアシシギ・ユリカモメ・ウミネコ・コアシサシなど19種であった。年間総個体数は、葛西沖人工渚が62.0%と平成14年度と同様に多数を占めた。

表1 - 2 鳥類地点別出現状況

	森ヶ崎の鼻	12号地貯木場	葛西沖人工渚	お台場海浜公園	計
種類数	42	30	40	22	57
個体数	4,756	9,362	44,760	13,277	72,155
個体数割合(%)	6.6	13.0	62.0	18.4	

(2) 科別の出現状況

カイツブリ科

カイツブリ・ハジロカイツブリ・ミミカイツブリ・アカエリカイツブリ・カンムリカイツブリの5種が確認された。このうち、カンムリカイツブリは4地点全てで観察された。

カイツブリを除く4種類は冬鳥であるため、全ての地点でほぼ冬季にのみ観察される。特に、カンムリカイツブリは葛西沖人工渚で冬季に多く観察され、年間総個体数でもスズガモに続いて多い。また、ミミカイツブリとアカエリカイツブリは本調査で確認されることは珍しいが、ともに平成13年度に続いて観察された。

ウ科

カワウ1種のみが観察された。全地点で一年中観察されており、個体数も多い。干潟や樹上で休息中の個体に加えて、水中で潜水採餌する個体も頻繁に観察された。また、第六台場では冬から春にかけて繁殖中の個体を確認した。

サギ科

ゴイサギ・ダイサギ・チュウサギ・コサギ・アオサギの5種が観察された。このうち、全地点で観察された種は、アオサギ・ダイサギ・コサギの3種である。チュウサギを除く4種は留鳥であり、全ての地点で主に春から夏にかけて観察された。ただし、第六台場ではアオサギのみ一年中観察された。

カモ科

カルガモ・スズガモなど計10種が観察された。このうち全地点で観察された種は、カルガモ・オナガガモ・ホシハジロ・スズガモ・マガモの5種である。一年中観察されるカルガモを除くと、全ての種が冬鳥であることから、全地点で冬季に種類数・個体数ともに増加する。特に、スズガモは森ヶ崎の鼻を除く3地点で冬季及び年間で最も多い個体である。

チドリ科・シギ科

チドリ科はシロチドリ・ダイゼンなど6種が、シギ科はハマシギ・キアシシギなど13種が観察された。そのうち、全地点で確認された種は、キアシシギ・キョウジョシギ・イソシギ・チュウシャクシギの4種である。干潟のある葛西沖人工渚と森ヶ崎の鼻では種類数・個体数とも多い。葛西沖人工渚は冬季に旅鳥または冬鳥であるハマシギが多く観察された。また、春から夏にかけて個体数は少ないが、様々

な種類が観察された。森ヶ崎の鼻では、夏期に種類数・個体数とも多く、メダイチドリを中心に夏期の総個体数の50%以上を占めた。一方、12号地貯木場とお台場周辺では種類数・個体数ともわずかであり、干潟の有無により個体数の差が大きい。

また、昭和57年度の調査開始以来始めて、オオメダイチドリが森ヶ崎の鼻で7月に2羽、8月に1羽観察された。本種は、ユーラシア大陸の温帯の内陸部で主に繁殖し、日本には春から秋にかけて干潟に渡来するが、数は少ない⁽¹⁾。

カモメ科

ユリカモメ・セグロカモメ・ウミネコ・コアジサシなど9種が観察された。全地点で観察された種は、ユリカモメ・セグロカモメ・オオセグロカモメ・ウミネコ・コアジサシの5種であった。ウミネコ・コアジサシを除くと冬鳥として越冬する種が多いことから、平成15年度調査でもウミネコ・コアジサシ以外は秋から春にかけて個体数が多い。特にユリカモメは、森ヶ崎の鼻では9月～3月で最優占種であり、お台場海浜公園でもスズガモに続いて個体数が多い。一方、ウミネコは夏から秋にかけて、コアジサシは春から夏にかけて個体数が多い。夏鳥として渡来し繁殖するコアジサシは、平成14年度は5月～7月に森ヶ崎の鼻においては最も個体数が多い種であったが、平成15年度は7月には個体数が0であり、7月調査時点(7月31日)では渡りがほぼ完了した後と考えられる。なお、コアジサシは環境省の日本版レッドリストでは絶滅危惧類(絶滅の危機が増大している種)に該当している。

その他

その他には、トキ科のクロツラヘラサギ、タカ科のミサゴ、クイナ科のバン、オオバン、ミヤコドリ科のミヤコドリ、セイタカシギ科のセイタカシギ、セキレイ科のキセキレイ・ハクセキレイが観察された。このうち、キセキレイは、9月に葛西沖人工渚で、調査開始以来始めて観察された。また、クロツラヘラサギは日本版レッドリストの絶滅危惧A類(ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種)に、セイタカシギは絶滅危惧B類(A類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種)に該当している。

(4) 調査地点別の出現状況

各調査地点の1年間の種類別優占度及び夏期(6～8月)の種類別優占度を図1～3に示す。

森ヶ崎の鼻

羽田空港・昭和島・京浜島に囲まれた場所にあり、干潮時には大きな干潟が現れる。一方、満潮時には完全に水面下になることもある。餌となるゴカイや貝類が豊富なうえ、陸から人が歩いて入れないため、干潮時には多くの鳥が餌を求めて集まっている。なお、干潟だけでなく周辺の水面や西側の護岸周辺にいる鳥も調査対象としている。

毎月観察された種はカワウのみであった。また、セグロカモメがほぼ一年中観察された。春から夏にかけては、



森ヶ崎の鼻(潮位 AP+0.3m 程度)

シロチドリ・メダイチドリ等のチドリ科やシギ科、カモメ科のコアジサシが多く観察された。夏から秋にかけてはカルガモやウミネコが多かった。冬季は、コガモ・ホシハジロ等のカモ類とユリカモメが多く観察された。年間個体数が最も多かった種は、平成 14 年度と同様にユリカモメであった。干潟が広がることから、他の地点と比べてシギ・チドリ類が多い。特に、夏場は極めてシギ・チドリ類の割合が高くなっており、昨年度と比べても割合は高くなっている（平成 14 年度 19% 平成 15 年度 57%）。

なお、森ヶ崎の鼻の近くにある下水道局森ヶ崎水処理センター（平成 16 年 4 月より森ヶ崎水再生センター）の屋上では、NPO、大田区と東京都下水道局が共同でコアジサシの営巣地整備を行っており、本種が多く観察されるのはそのためであると考えられる。

8 月の調査では、個体数こそ 550 羽と多くはなかったが、種類数は 25 種と極めて多くの種が確認された。特に、干潟で採餌中のシギ・チドリ類が多く、メダイチドリやムナグロ、アオアシシギ、キアシシギ等 14 種が確認された。

12 号地貯木場

中央防波堤内側埋立地の北で、有明・辰巳・新木場・若洲地区に囲まれた場所にある。貯木量の増減により鳥の数や種類も変化するが、現在では、ほとんどの調査日で貯木量が少ないことから、貯木で休息する種より、水面で休息・採餌する種が多い傾向がある。なお、南側の防波堤も調査対象としている。

12 号地貯木場の特徴としては、冬季に種類数は少ないが個体数が多い傾向がある。中でも、スズガモの群れが水面で休息している様子が多く観察される。他には、冬季にはオナガガモ・ホシハジロ・セグロカモメ、春から秋にかけてはウミネコが多く、平成 14 年度と同様の傾向であった。また、カワウは少数ながら毎月観察され、カルガモ・セグロカモメもほぼ一年中観察された。



12 号地貯木場（開放水面が広がっている）

葛西沖人工渚

旧江戸川河口と荒川河口の間の葛西沖に造られた人工干潟。東渚と西渚に分かれており、そのうち鳥類保護のため立入禁止となっている東渚を調査対象としている。かつては船上からの調査を行っていたが、渚が遠浅であることから、物陰に隠れた鳥や小さな鳥の観察は困難であったので、現在は上陸して調査を行っている（ただし、干潟の見える場所から望遠鏡等で観察）。立入禁止であることから、種類数、個体数ともに多い。干潟だけでなく、遠浅の海面上にいる鳥も対象としている。

年間個体数が最も多いのはスズガモであり、全体の 64% を占めている。その他には、カワウ・カンムリカイツブリ・ウミネコ・ユリカモメ・ハマシギが多く観察された。季節ごとでは、冬季にカンムリカイツブリとスズガモが海面上に、ハマシギやシロチドリが干潟部に多い。特に、カイツブリ類は他の調査地点



葛西沖人工渚（東京湾を望む）

と比べて非常に多く観察された。一方、夏期にはウミネコやカワウ・サギ類が多く、コアシサシも調査月によっては個体数が多いことがあった。シギ・チドリ類は、個体数の優占度としては決して高くないが、カモ類やカワウの個体数が非常に多いためであり、種類数・個体数は森ヶ崎の鼻と並んで多い。

お台場周辺

お台場海浜公園とレインボブリッジの近くにある第六台場を併せた地域である。お台場海浜公園は、2つの人工島と第三台場、砂浜、岩場にかけての地域及びそれらに囲まれた水面を調査対象としている。特に夏休みには、観光客を中心にたくさんの方が訪れる場所である。第六台場は人の立入りが禁止されており、現在はカワウのコロニーが存在する。

お台場海浜公園において年間個体数が多いのはスズガモ・ユリカモメで、年間の個体数割合（第六台場除く）はそれぞれ47%、35%であった。両種とも秋から春にかけて観察され、スズガモは主に水面に、ユリカモメは砂浜やくいの上など様々な場所で観察された。また、オナガガモやセグロカモメも冬季に多く観察された。他には、カルガモが春から夏に、ウミネコが夏から秋に、カワウは一年中観察された。また、シギ・チドリ類は観察されない月が多かった。また、コアシサシは森ヶ崎の鼻と同様に7月以降は観察されなかった。

第六台場は、平成14年度と同様に、カワウが年間総個体数の90%以上を占め、一年中観察された。カワウは冬季に繁殖期を迎え、春ごろには雛が誕生するが、平成15年度は冬から春にかけて特に多く観察されており、繁殖期をむかえて増えたものと考えられる。



お台場海浜公園
(上：南西側の岩場、下：北東側の砂浜)

3. 平成15年度調査のまとめ

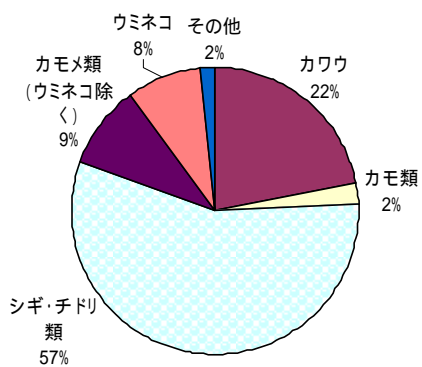
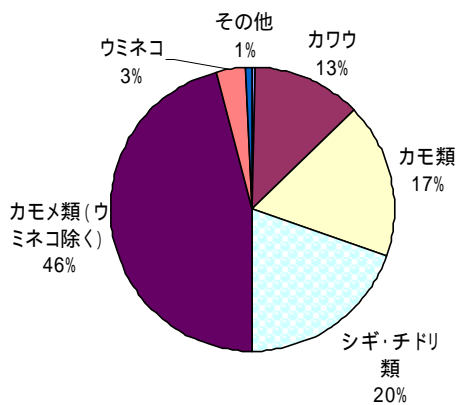
平成15年度の鳥類調査の結果を以下にまとめる。

- ・平成15年度の総出現種類数は57種で、平年どおりであった。
- ・出現種類数は、全ての地点の中で森ヶ崎の鼻が最も多かった。また、森ヶ崎の鼻では、シギ・チドリ類の個体数の割合が平成14年度より増加し、夏場に限っては総個体数の57%（平成14年度は19%）を占めていた。
- ・昭和57年度の調査以来、初めてオオメダイチドリ（チドリ科）とキセキレイ（セキレイ科）の2種を確認した。

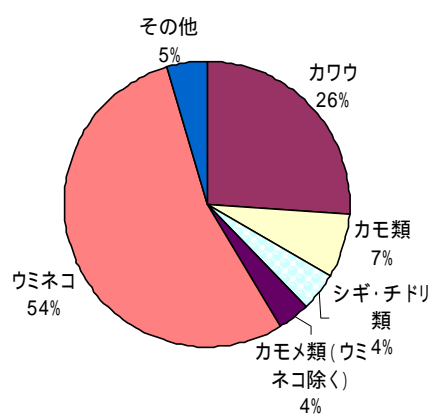
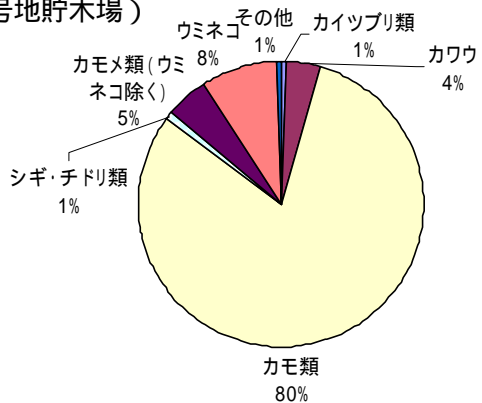
（参考文献）

(1)山と溪谷社、日本の野鳥、p212

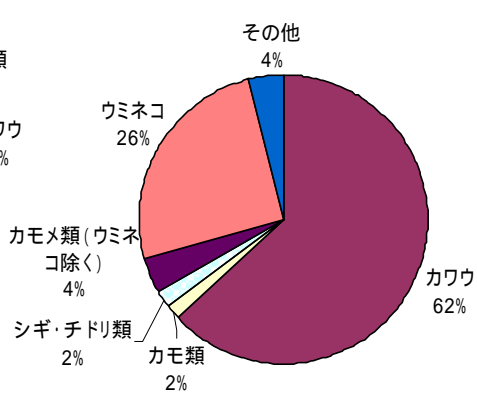
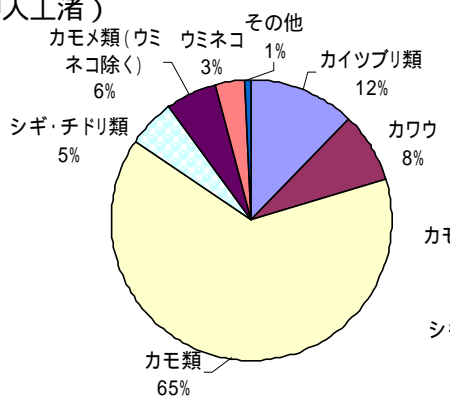
(森ヶ崎の鼻)



(12号地貯木場)



(葛西沖人工渚)



(お台場周辺)

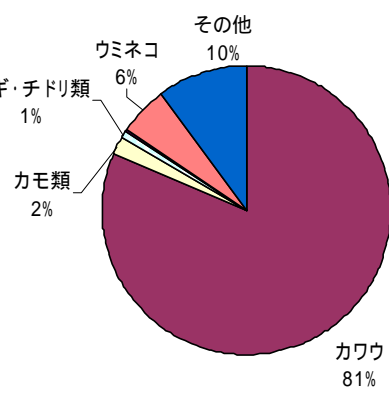
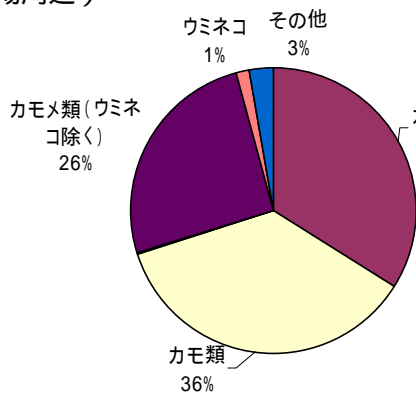


図1 - - 3 各調査地点における種別別優占度
(左：1年間、右：6～8月)

表1 - - 3 鳥類の月別出現状況(全地点合計で11羽以上)

科	和名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
カイツブリ	ハジロカイツブリ												
	ミミカイツブリ												
	カンムリカイツブリ												
ウ	カワウ												
サギ	ゴイサギ												
	ダイサギ												
	コサギ												
	アオサギ												
カモ	マガモ												
	カルガモ												
	コガモ												
	ヒドリガモ												
	オナガガモ												
	ホシハジロ												
	スズガモ												
	ミヤコドリ	ミヤコドリ											
チドリ	シロチドリ												
	メダイチドリ												
	ムナグロ												
シギ	キョウジョシギ												
	トウネン												
	ハマシギ												
	アオアシシギ												
	キアシシギ												
	ソリハシシギ												
	オオソリハシシギ												
	チュウシャクシギ												
カモメ	ユリカモメ												
	セグロカモメ												
	ウミネコ												
	アジサシ												
	コアジサシ												
11羽以上種類数		8	12	9	12	13	7	10	14	15	13	13	11

注) 全地点合計で 11 羽以上となった種類を黒塗りで示した。

表1 - - 4 鳥類種別経年出現状況(全地点)

科	種名	S57	S58	S60	S61	S62	S63	H元	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15		
カイツブリ	カイツブリ																							
	ハジロカイツブリ																							
	ミミカイツブリ																							
	アカエリカイツブリ																							
ミズナギドリ	カンムリカイツブリ																							
	オオミスナギドリ																							
ウ	ハシボソミスナギドリ																							
	カワウ																							
サギ	ゴイサギ																							
	ササゴイ																							
	タイサギ																							
	チュウサギ																							
	コサギ																							
	クロサギ(白色型)																							
トキ	アオサギ																							
	ヘラサギ																							
カモ	クロツラヘラサギ																							
	マガモ																							
	カルガモ																							
	コガモ																							
	ヨシガモ																							
	オカヨシガモ																							
	ヒドリガモ																							
	オナガガモ																							
	ハシビロガモ																							
	ホシハシロ																							
	オオホシハシロ																							
	キンクロハシロ																							
	スズガモ																							
	ホオジロガモ																							
	ミコアイサ																							
	ウミアイサ																							
	トモエガモ																							
シマアジ																								
クロガモ																								
タカ	ミサゴ																							
クイナ	バン																							
	オオバン																							
クイナ	クイナ																							
	クイナ																							
ミヤコドリ	ミヤコドリ																							
チドリ	ハジロコチドリ																							
	コチドリ																							
	シロチドリ																							
	メダイチドリ																							
	オオメダイチドリ																							
	イカルチドリ																							
	ムナグロ																							
	ダイゼン																							
シギ	キョウジョシギ																							
	トウネン																							
	ウスラシギ																							
	ハマシギ																							
	サルハマシギ																							
	コオハシギ																							
	オハシギ																							
	ミユビシギ																							
	エリマキシギ																							
	キリアイ																							
	アオアシシギ																							
	キアシシギ																							
	イソシギ																							
	ソリハシシギ																							
	オグロシギ																							
	オオソリハシシギ																							
	タイシャクシギ																							
	ホウロクシギ																							
	チュウシャクシギ																							
タシギ																								
コアオアシシギ																								
アカアシシギ																								
セイタカシギ	セイタカシギ																							
ヒレアシシギ	アカエリヒレアシシギ																							
カモメ	ユリカモメ																							
	セグロカモメ																							
	オオセグロカモメ																							
	ウシカモメ																							
	シロカモメ																							
	カモメ																							
	ウミネコ																							
	ズグロカモメ																							
	ミツコビカモメ																							
	ウライカモメ																							
	クロハラアジサシ																							
アジサシ																								
コアジサシ																								
カワセミ	カワセミ																							
セキレイ	キセキレイ																							
	ハクセキレイ																							
	セグロセキレイ																							
	タビバリ																							

注) その年度の調査で1羽でも出現した種類を黒塗りで示した。